

19. 「日本における『マクベス』」、『武蔵野短期大学研究紀要』第 12 輯、武蔵野短期大学、平成 10 年 6 月、ISSN:0288-8025

89-98 頁

日本における『マクベス』受容史を、特に上演史を中心に論じた。黒澤明の『蜘蛛巣城』、蜷川幸雄演出の『NINAGAWA マクベス』は演劇交流の観点からみれば、国際文化交流の役割を十分に果たした。また、研究の分野からみると夏目漱石の「マクベスの幽霊に就いて」の論文は、時代的にみるとかなりの画期的な論文である。A.C.ブラッドレー以前の論文だけに、その評価はもっと評価されるべきものと思われる。巻末に本邦初の上演年表を完備した。(B 5)